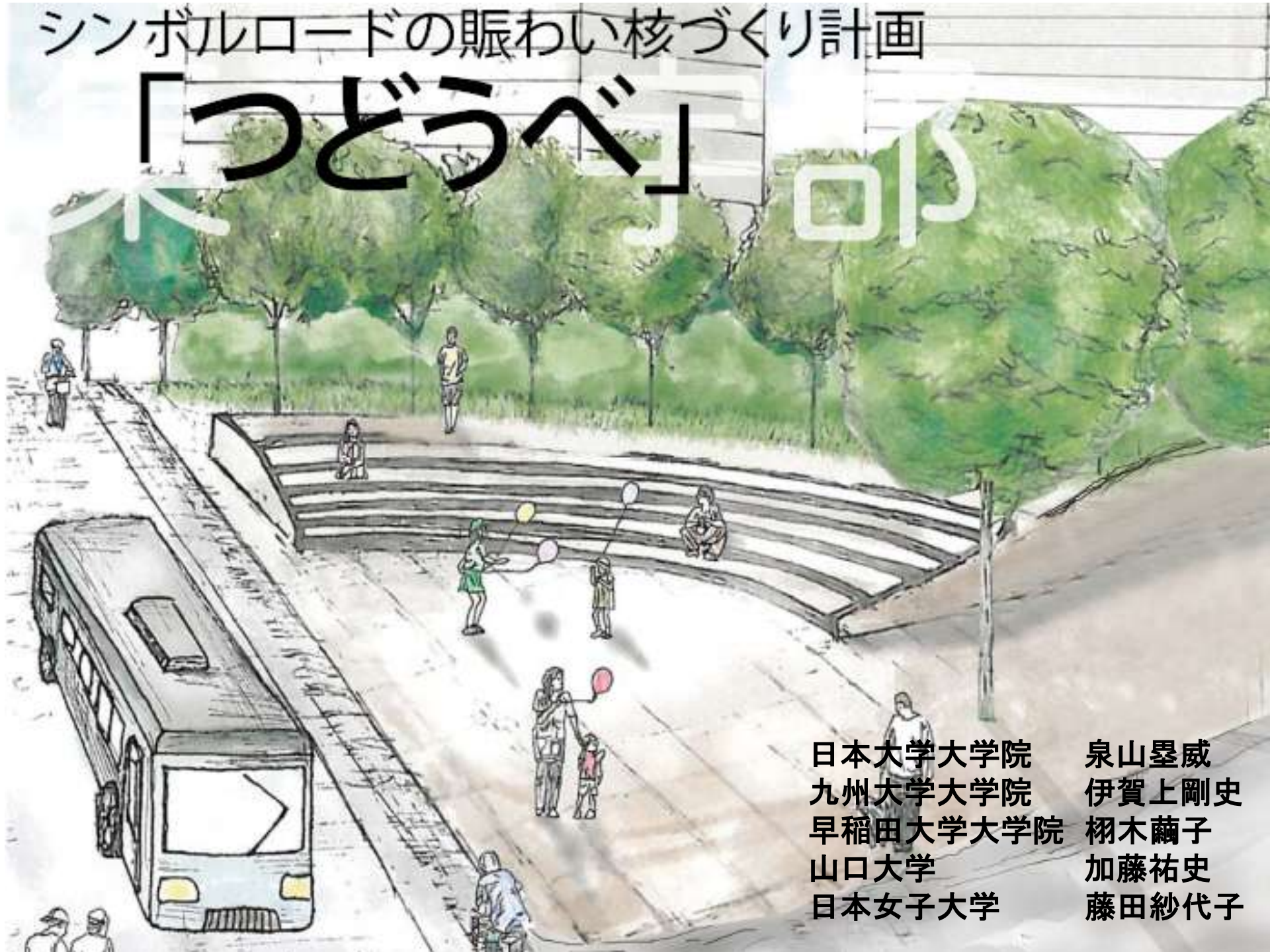
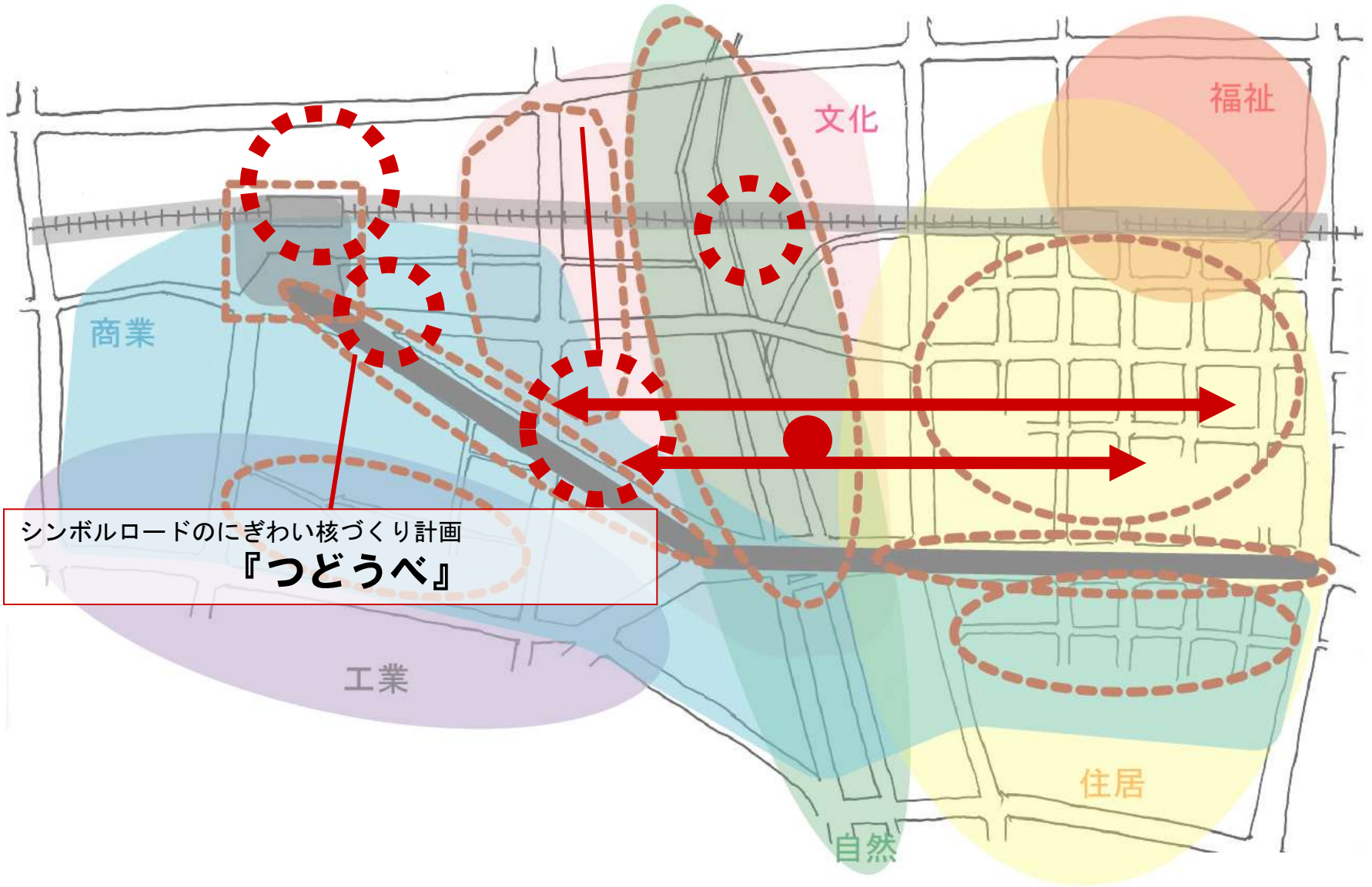
シンボルロードの賑わい核づくり計画

「つどうベ」



日本大学大学院　泉山塁威
九州大学大学院　伊賀上剛史
早稲田大学大学院　栩木繭子
山口大学　加藤祐史
日本女子大学　藤田紗代子

≪７つの提案プロジェクト≫



調査･分析

建物用途の現状把握

- オフィス、事務所
- 空き家・空きテナント
- コンビニ
- 塾
- 金融関係オフィス
- お土産屋
- 飲食店舗
- 住宅
- 公園・オープンスペース
- 駐車場

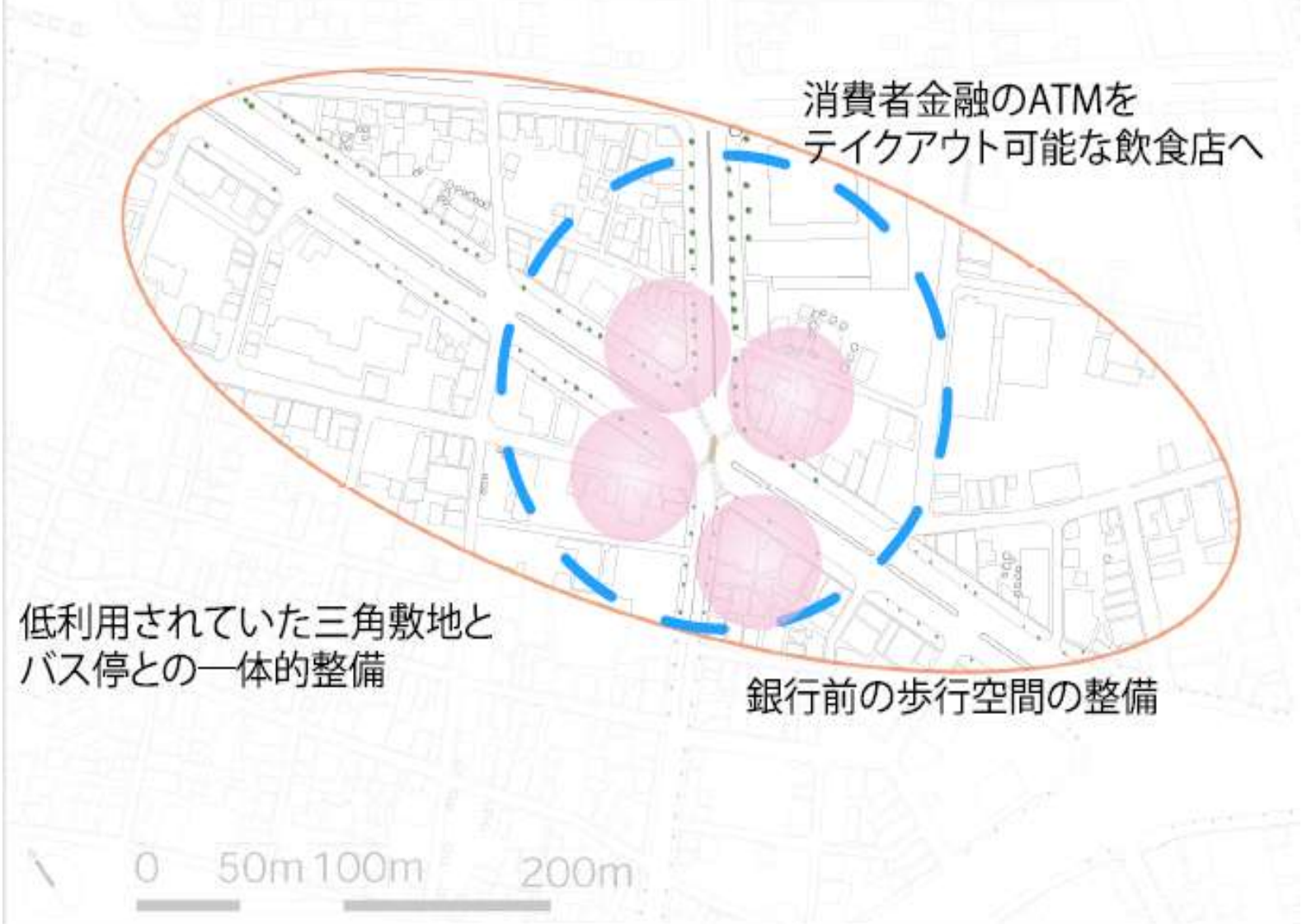
シンボルロード沿いの建物用途を調査したところ、混在した用途の中に、学習塾、空きテナント・空きビルが多く、特にシンボルロードの南側に顕著に現れている。

利用者行動によるゾーニング

建物用途把握および現地踏査から、利用者行動をゾーニングしてみると、
交差点に様々な利用者が混成していることがわかる。
ここに、賑わいの核となる拠点性を持たせる必要性がある。

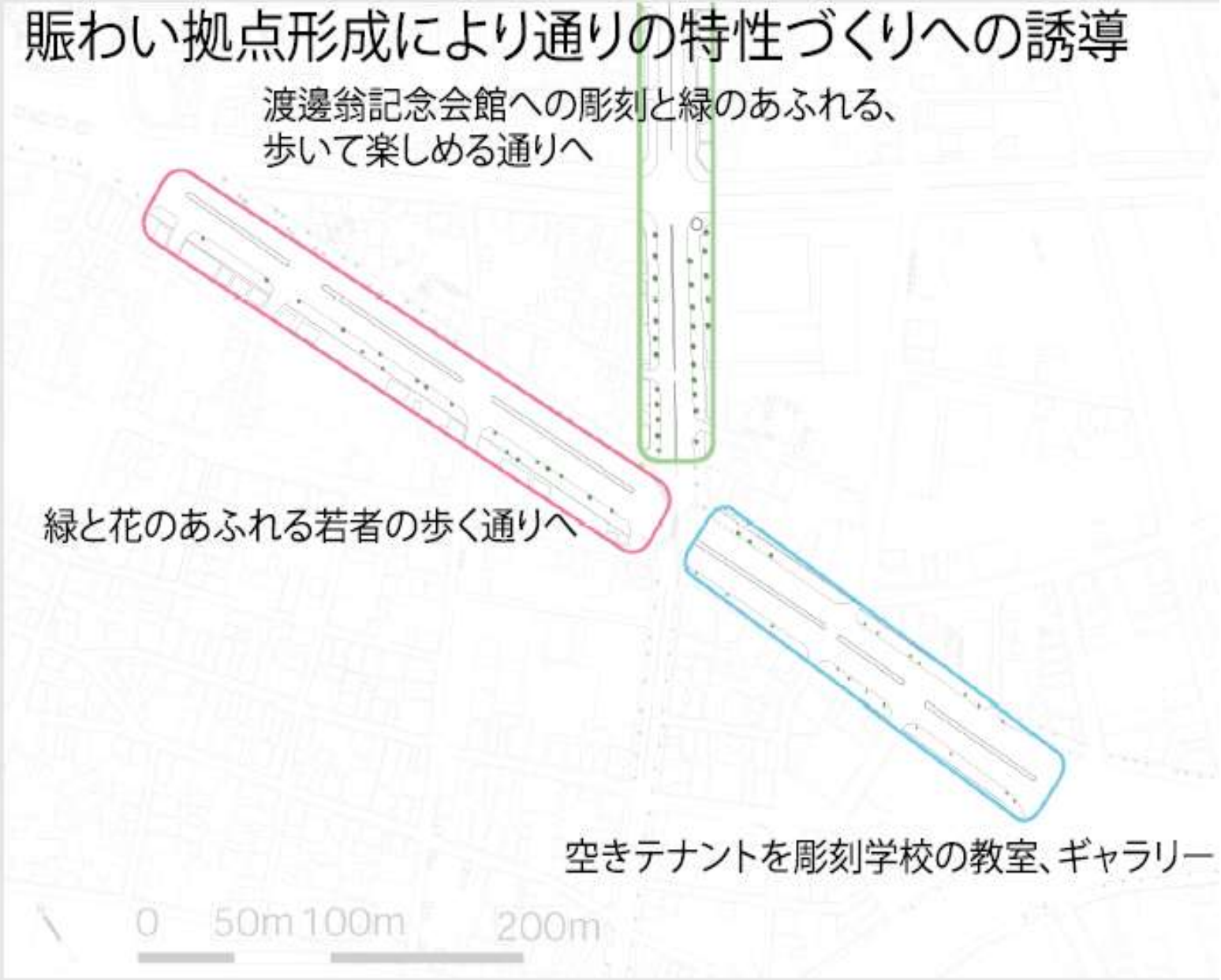
提案へのシナリオ

四つ角の利用改善による賑わい拠点の形成



それぞれの角地に広場整備、利用改善、交差点空間の整備を行い、交差点に人がたたずまうような核とする。

賑わい拠点形成により通りの特性づくりへの誘導



拠点整備により通りに特性をもった歩行者中心の通りへ、ロードガイドラインにより誘導していく。

みち沿道のエリアの商業化

沿道の土地利用

商業エリアとして、沿道の建物の1階は商業系テナントを誘致

地元経営の商業を積極的に誘致する

→ひとを呼び込めるエリアとなる

賑わい拠点の提案

拠点形成のポイント

- バス停の分散による四つ角整備
- 銀天プラザへのビューポイント
- 飲み屋街への連続性
- 渡邊翁記念会館の通りへの誘導
- 拠点形成の種地となる三角敷地

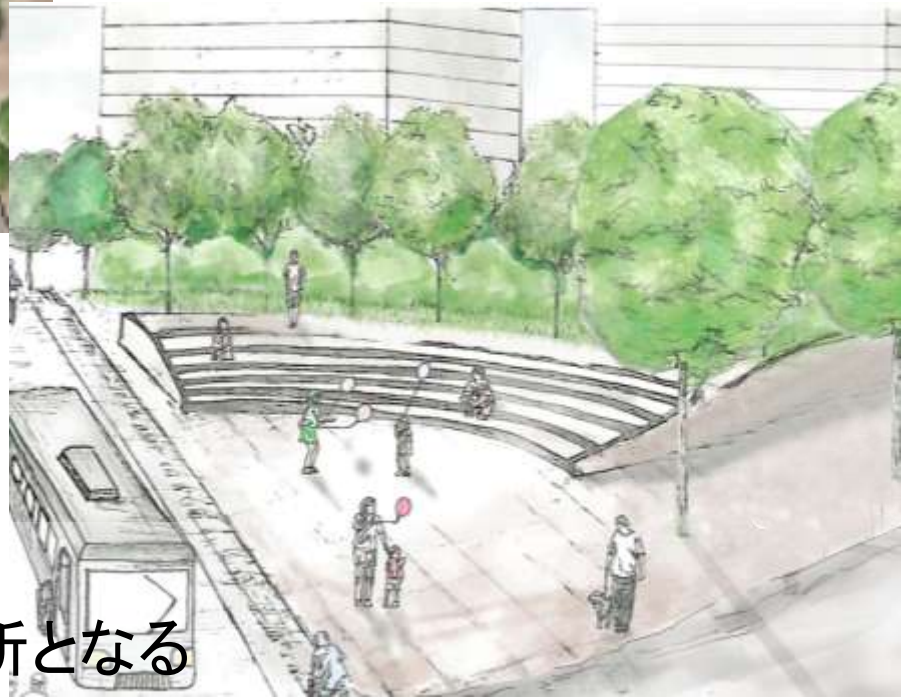
核づくりにおける2つの計画

角地の広場化

銀天＋三角敷地の一体的プラン化

角地の広場化

公園的な特徴づけをした渡辺翁通りと連続するような緑溢れる広場



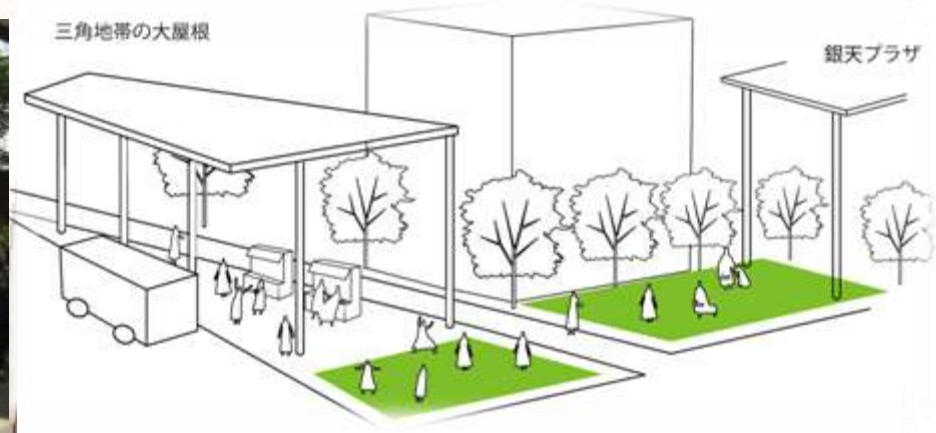
シンボリックな彫刻を設置
→人々の新たな待ち合わせ場所となる

銀天＋三角敷地の一体的プラザ化

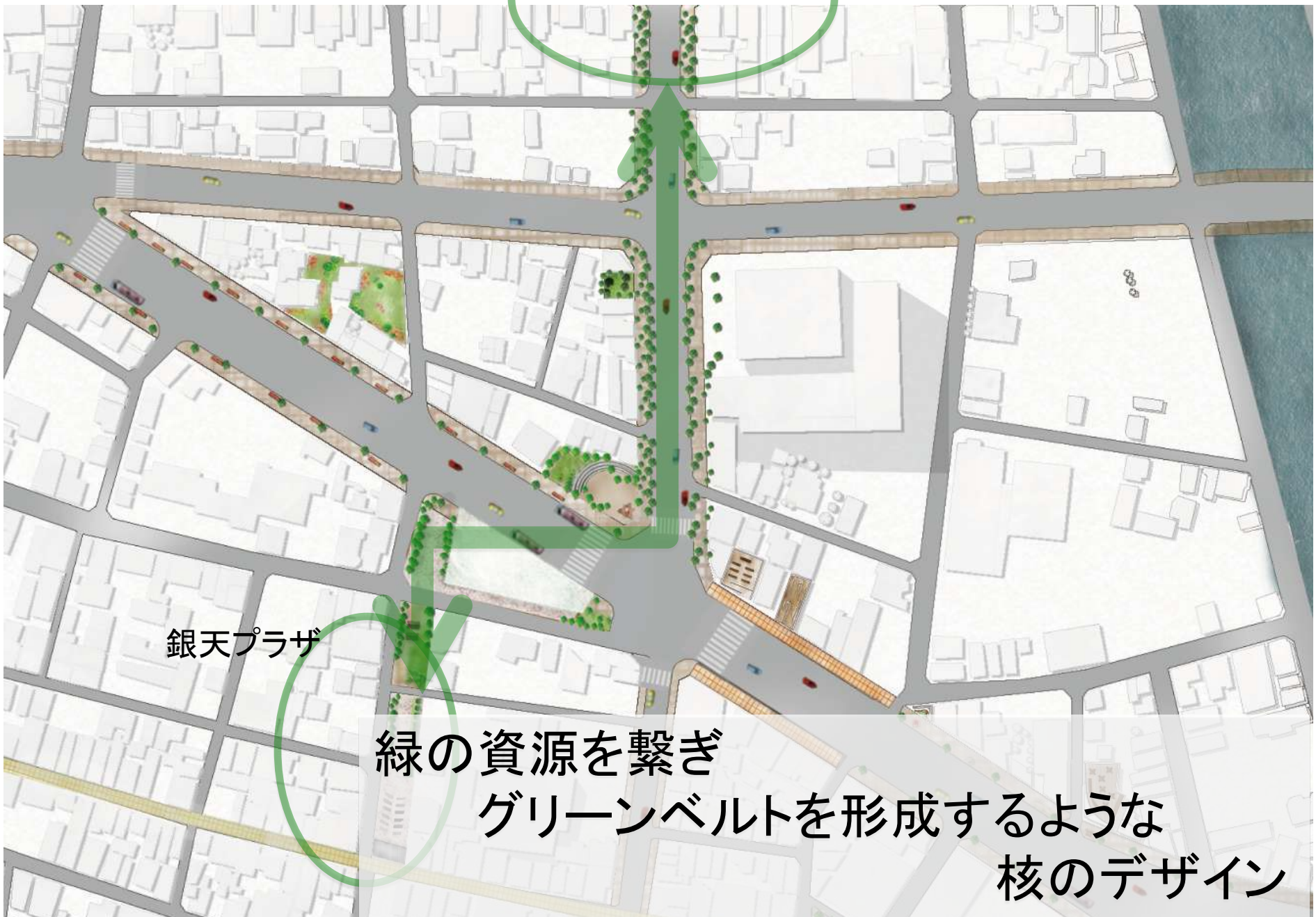
三角敷地
→多様な動線を受入れる。
様々な出会いの可能性。

銀天プラザとの一体化
→魅力ある場所、銀天プラザに様々な人を引き込む。（既存の銀天プラザを180°回転させる）

この事で周囲への影響が期待される。



核作りの中でのデザインの意図



ガイドラインによる通りの誘導

シンボル通り北側ー緑と花と彫刻の通りー

ガイドライン
はなまちづくりガイドライン
住民に植木や花壇づくりの推進
住民による街路花の維持

空間の整備
通り沿いのパーキングの廃止と空き地の緑化,／花壇の設置

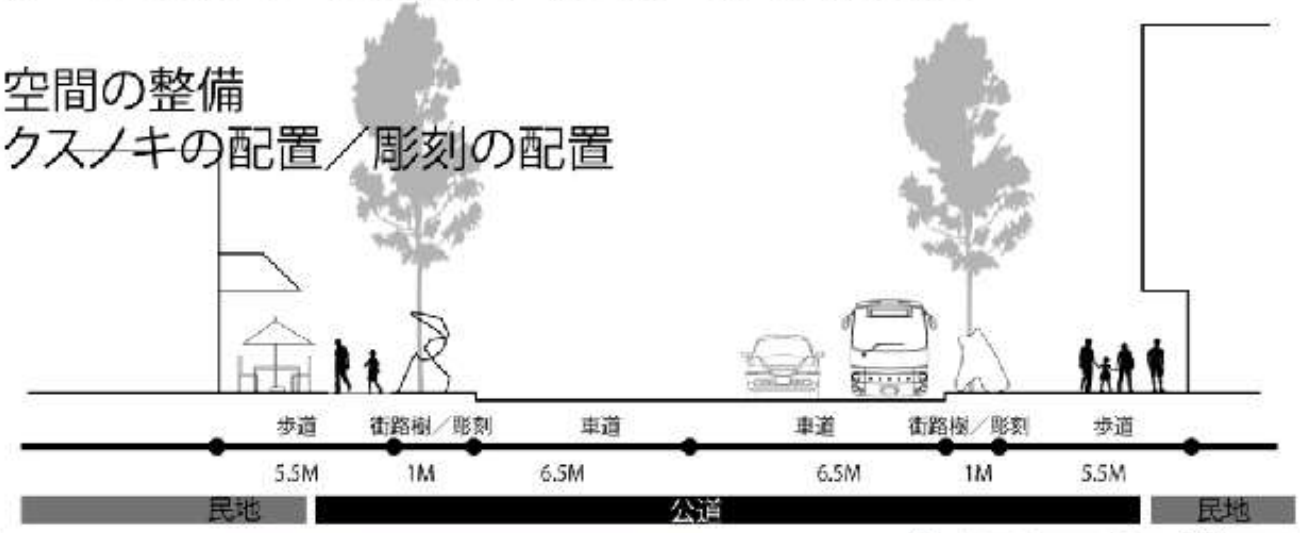
シンボル通り南ーアート通りー

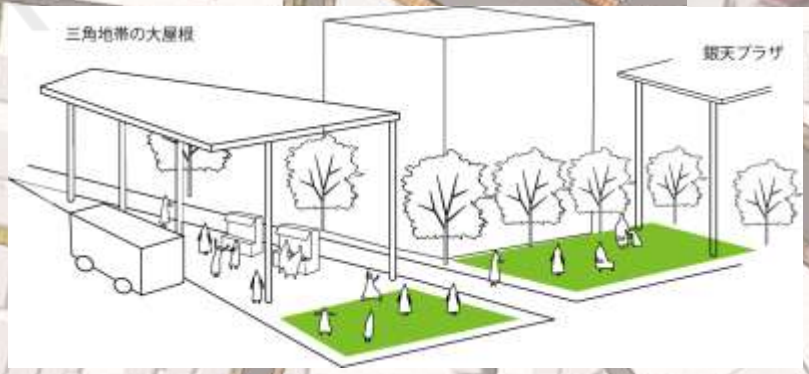
まちなか彫刻学校の設立
空きテナントを利用した、、まちなか彫刻学校の設置
１Fのギャラリー的利用の推進
歩行空間のギャラリー的利用

渡辺翁通り―緑と彫刻の公園通り―

ガイドライン
セットバックの義務（１m～２m）
オープンスペースには、テラスやベンチの設置

空間の整備
クスノキの配置／彫刻の配置




三角地帯の大屋根
鋲天プラザ